



安研ニュース vol. 29 No. 2 目次

就任・退任の御挨拶 鈴木理事長 尾添前理事長
飛鳥理事 松井前理事

1. 外部研究評価会議の結果について
2. 所外有識者による所内講演
3. 大阪大学人間科学部との連携大学院協定調印
4. 研究所の動き

就任のご挨拶 理事長 鈴木芳美



この度、任期を満了された尾添前理事長の後任として、平成17年4月1日付けをもって理事長の大役を勤めさせて頂くことになりました。何卒よろしくお願い申し上げます。

産業安全研究所は、昭和17年1月に国立研究所として発足以来、我が国における唯一の労働災害防止技術の研究開発を行う研究機関として60余年の歴史を積み重ねて参りました。

研究所誕生の発端となったのは、安全運動に非常に熱心であった民間の一事業主である故伊藤一郎氏が、昭和15年に当時の厚生大臣吉田茂に提出した寄付願で、その寄付願には「産業界ニ於ケル災害増加ノ傾向ニ鑑ミ産業安全ノ徹底ヲ図ル事ハ誠ニ緊要ノ事ト被存候而シテ右目的達成ノ基本的方策トシテハ厚生省付属産業安全研究所及産業安全博物館ヲ設置致候事最モ大切ト痛感致候」と記されており、労働災害の防止、労働者の安全確保が、国として担保すべき不変の課題であると喝破されておられます。

これを契機に設立された「産業安全を目的とした国立研究所」として産業安全研究所は、その後終始一貫して、科学技術の側面から労働安全行政を支えて来ました。平成13年の特定独立行政法人への移行後も、当研究所の役割と使命は全く変わることは無く、現在まで研究活動を継続し、今年度は第一期の中期目標期間の最終年度である5年目に入ります。

しかし行財政改革の大きな流れの中での独立行政法人見直しの一環として、次年度には当産業安全研究所は、産業医学総合研究所との統合・非公務員化を迎えることになっています。当所の歴史の中でも最大の転換期を間近に控え、難問は山積みではありますが、役職員一同、先人の思いを忘れることなく、これまで通り地道に安全研究業務に邁進したいと考えております。

退任のご挨拶 前理事長 尾添 博



産業安全研究所は設置されて以来、一貫して我が国の産業災害、労働災害の防止と産業現場での安全水準の向上に調査研究という立場から関わり、その使命と役割を果たし貢献をしてきた。

その設置は昭和17年1月であり、これまでの63年の間、その時々々の災害の状況、生産技術、科学技術の実態、経済、社会状況等を踏まえ、またこれらの将来を見通しながら、適切な調査研究課題の選定と実施、得られた研究成果の効果的な普及、研究環境の整備等を行ってきた。これまでの間、産業安全研究所の社会から付託された使命と役割が果たされてきたのは、その時々々の研究者等の関係者がそれぞれの立場に応じて真摯な態度で業務に励んできたからだと考えている。

この5年間は、国立研究所から独立行政法人への組織変更のために発生してきたさまざまな研究外業務を職員が一致協力して行いながら、独立行政法人制度設置の趣旨である、国直轄であったこれまでより、柔軟な仕事のやり方で、国民の皆様に、より質の高い行政サービスを提供するようするということを念頭に置き、いろいろな取り組みに挑戦してきたところである。

さらに1年後には、産業医学総合研究所との統合等の改革が予定されている。産業安全に係る調査研究の重要性とそれを行う産業安全研究所の必要性はいかなる事態になろうとも変わるものではなく、誰も否定し得るものではない。今後は、新しい制度、体制の中で、産業安全研究活動のより一層の発展が図られることを期待する。終わりに、産業安全研究所がこれからも我が国の産業現場で働く人々の命と安全を守るために、調査研究という立場からのさらに一層の貢献を果たし、また我が国の期待される立場を踏まえた国際的な役割の遂行がなされることを祈念して退任の挨拶とします。

就任のご挨拶 理事 飛鳥 滋



4月1日付で松井前理事の後任として理事を拝命いたしました。よろしくお願いいたします。ドッグイヤーという言葉で象徴される急テンポの科学技術の進展，社会経済の変化のなかで，働く現場の様相も就業形態も変化がめまぐるしい

今日は，安全衛生についても単なる従来パターンの踏襲ではなく，変化する事業場の状況に応じた自主的，自律的な安全衛生活動を体系的に実施し，職場におけるリスクの確実な低減に結びつけていく着実な取組が求められております。産業安全研究所は，独立行政法人に移行して4年が経過し，この間，役職員一同が常に事業場の現場に軸足を置きながら労働災害の予防に関する調査および研究に一丸となって取り組んで参りましたが，今後ともこのような労働安全を取り巻く環境変化の風を柔軟な感性を持って敏感にとらえながら，調査研究を通じてその使命をよりよく果たせるよう努力して参る所存です。来年度には産医研との統合という，当研究所自らにかかる大きな環境変化に直面いたしますが，これも，役職員全員がより良く国民ニーズに応えることができるための更なる飛躍へのステップにできればと考えております。微力ながら理事長を支えて専心努力する所存でありますので皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

1. 平成16年度外部研究評価会議の結果について

産業安全研究所では社会的要請に沿った業務運営を効率的に推進していくために「産業安全研究所外部研究評価会議」を毎年開催しており，この会議では外部の専門家・有識者が総合的に検討した結果に基づき評価ならびに提言を行っている。

平成16年度の外部研究評価会議は11月15日に開催された。以下にその結果の概要を報告する。

当日は，内部研究評価会議の運営に資するために「内部研究評価会議の実施状況」に関する討論，平成18年度より実施予定のプロジェクト研究1課題についての事前評価，平成14年度から平成17年度まで実施予定のプロジェクト研究1課題についての中間評価，および平成13年度に始まり平成15年度で終了したプロジェクト研究1課題についての事後評価を実施した。

「内部研究評価会議の実施状況」に関する討論では，

退任のご挨拶 前理事 松井英憲



平成17年3月31日付けをもちまして，独立行政法人産業安全研究所理事を退任いたしました。昭和41年に労働省入省後38年間に亘り研究所に勤務させて頂きました。最後の2年間は理事として，理事長を補佐する立場で研究所全般の運営に

携わって参りました。独立行政法人設立の趣旨では機動的，弾力的で柔軟な運営ができるはずでしたが，実際には予算の執行や人の採用，業務内容等で多くの縛りがあり，思うようには動けない状況でありました。願わくば，独法本来の趣旨に立ち返り，法人設立の目的に添った適正且つ効率的な運営は独法の主体に委ね，所轄庁は法人の業務の実績のみ評価してもらいたいものです。産業安全研究所は平成18年度より産業医学総合研究所と統合し，役職員の身分を非公務員化することが決定され，新たな体制造りが求められています。このような試練を乗り越えて，産業安全研究所が今後ますます世の中から認められ，活力を持って発展していくことを祈念して退任の挨拶と致します。

広範囲にわたる労働災害防止のための多くの研究課題を少ない研究者で意欲的に取組んでおり，独立行政法人になり3年が経過した現在，内部研究評価会議のあり方も十分定着してきたという意見が得られた。

研究課題は最高点を5点とする5段階評価で行われ，事前評価では「学術的意義」「社会的意義」「研究目標と計画」の3項目について，また中間および事後評価では，この3項目に加えて「研究成果と価値」「研究成果の公開」の各項目について評価を行った。

プロジェクト研究事前評価課題「災害多発分野におけるリスクマネジメント技術の高度化と実用化に関する研究」は，建設・機械・化学の災害多発分野を対象に，労働災害防止のための多様なリスクを科学的・体系的に評価・低減するためのマネジメント技術の構築を目的とした研究であり，総合的評価得点は4.0点であった。

中間評価を受けた研究課題「産業リサイクル過程における爆発・火災災害の防止に関する研究」は、爆発危険性をはらんでいるにもかかわらず危険要因という視点からの研究はほとんど行われていないことに着目して実施した研究であり、社会的にも意義のある研究と認められ、総合的評価得点は4.3点であった。

事後評価を受けた研究課題「建設機械の保守管理システム高度化のための損傷評価技術の開発」は、機械の構造健全性評価技術の開発が、昨今の社会的潮流である寿命延伸に繋がることに着眼した研究であり、建設機械の破損は労働災害に直結する可能性が高いことから、本研究内容を行政・社会的要請との適合性あるいは規格への発展性まで含めて考えた場合、社会的意義が高いという評価が得られ、総合的評価得点は3.3点であった。 (研究企画調整部 江川義之)

2. 外部講師による研究討論会の開催

2005年3月15日に春日電機株式会社社長西川正幹氏および独立行政法人産業医学総合研究所の企画調整部長の本間健資氏を当研究所にお招きしてご講演頂いた。

春日電機株式会社は静電気の応用、測定、障害・災害防止に関する製品を製造・販売するメーカーである。現在、当所物理工学安全研究グループと粉体用の防爆型除電器の共同研究開発も実施している。西川氏の講演では、主に春日電機の紹介と現行及び将来の共同研究開発や研究所の静電気安全指針の改訂等に関して貴重なご意見とご要望を頂いた。

当研究所は産業医学総合研究所と来年度より統合予定となっている。両研究所とも旧労働省付属の研究機関であったが、研究分野の違いもあって、比較的疎遠であった。今回は、産業医学総合研究所の組織や研究内容に関して概括的なお話しを頂くとともに、流動研究者宿舎や国際学術誌の刊行などについてもご紹介を



講演中の西川正幹氏



講演中の本間健資氏

頂いた。今後は統合の礎となる活発な相互交流が実施されることであろう。

(物理工学安全研究グループ 大澤 敦)

3. 大阪大学人間科学部との連携大学院協定調印

当研究所と大阪大学大学院人間科学研究科は、連携大学院制度に基づく教育研究協力協定を平成17年3月1日に締結した。

本連携大学院協定は、大阪大学から招聘教員の委嘱を受け、研究所において大学院生の研究指導等を行うもので、学生の資質向上と共に、相互の研究交流促進による科学技術発展への寄与を目的としている。

この度の協定締結は長岡技術科学大学、日本大学理工学部に次いで3件目の連携大学院協定である。

(境界領域・人間科学安全研究グループ 中村隆宏)

4. 研究所の動き

◎学位取得

当研究所建設安全研究グループ主任研究官玉手 聡が平成17年2月24日、武蔵工業大学から「不安定な支持地盤に設置された移動式クレーンの転倒危険性に関する研究」により、博士(工学)号を授与された。

◎表彰

当研究所建設安全研究グループ主任研究官豊澤康男・他機関3名は平成17年4月20日、平成17年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を受けた。技術部門における受賞で、業績名は「鋼矢板による自立式土留め工法の開発」であり、当研究所で実施した産官学共同研究により開発された成果である。

◎紙上発表

- 1) 大幢勝利：強風下における足場の組立て・解体作業の危険性、建設労務安全、Vol.29, No.14, pp.8-15, 2004.
- 2) 大幢勝利, 日野泰道：強風下における足場の組立・解体作業の危険性に関する基礎的研究, 第18回風工学シンポジウム論文集, pp.181-186, 2004.
- 3) 山隈瑞樹：増加する金属粉じん爆発一帯電防止・

燃焼物除去の徹底を！，労働安全衛生広報，Vol.36，No.857，pp.6-15，2004.

4) 花安繁郎ほか：欧州連合における最近の安全衛生政策の動向，建設マネジメント研究論文集，Vol.11，pp.343-350，2004.

5) 中村隆宏：危険再認識教育の課題と展望(1)，全登協ニュース，No.1，pp.12-13，2005.

6) 永田久雄：高齢者と交通機関の安全－高齢者の通勤途上での転倒，社会教育1月号，pp.28-30，2005.

7) A.Ohsawa：Precisely balanced ionizer using atmospheric pressure glow discharge in air，Journal of Electrostatics，Vol.63，No.1，pp.45-57，2005.

8) S.B.Tamrakar,Y.Tooyosawa,K.Itoh, et al.：Development of New Type of Tensile Test Apparatus and Results of Compacted and Pre-consolidated Clayey Soils，Geo-Frontiers 2005 (CD-ROM)

9) 池田博康：一般工作機械におけるリスク低減の考え方と方策，TISニュース，No.219，pp.6-8，2005.

10) 江川義之：効果的な聴力保護具の選定法について，安全衛生コンサルタント，Vol.25，No.73，pp.44-48，2005.

11) 池田博康：リスクに基づく安全とアセスメント，安全衛生のひろば，Vol.46，No.2，pp.36-37，2005.

◎ 口頭発表

1) 水谷高彰，大塚輝人，松井英憲ほか：水素－空気爆燃の野外実験，12月1日，第42回燃焼シンポジウム.

2) 水谷高彰，大塚輝人ほか：室内実験による水素－空気爆燃現象の観測，同上.

3) 大塚輝人，水谷高彰ほか：水素ガス漏洩爆発現象の計算的検証，12月2日，同上.

4) 山際謙太ほか：破壊破面解析支援データベースの構築，12月2日，第20回材料・構造信頼性シンポジウム.

5) 深谷潔，中村隆宏，万年園子：掘削機災害小型シミュレータの開発，12月3日，第13回日本機械学会交通・物流部門大会.

6) 清水尚憲，梅崎重夫：危険点近接作業における総合的リスク低減戦略の提案，同上.

7) 深谷潔：広大作業空間における機械の再起動時の安全補助システムの検討，12月22日，計測自動制御学会東北支部40周年記念学術講演会.

8) 齋藤剛ほか：産業用セーフティバスとインターフェースの検討，12月17日，電気情報通信学会ディペングブルコンピューティング研究会.

◎人事異動

平成17年3月31日付け

新職名	氏名	旧職名
退任	尾添 博	理事長
退任	松井 英憲	理事
辞職	鈴木 芳美	研究部長 (境界領域・人間科学安全研究グループ担当)

平成17年4月1日付け

新職名	氏名	旧職名
理事長	鈴木 芳美	研究部長 (境界領域・人間科学安全研究グループ担当)
理事	飛鳥 滋	厚生労働省大臣官房付
研究部長 (境界領域・人間科学安全研究グループ担当)	永田 久雄	研究部長 (建設安全研究グループ担当)
研究部長 (建設安全研究グループ担当)	堀井 宣幸	研究企画調整部主任研究官
研究企画調整部主任研究官	富田 一	物理工学安全研究グループ主任研究官
物理工学安全研究グループ研究員	市川 紀充	新規採用
総務課経理係長	塩田 恵次	労働基準局労災補償部補償課 労災保険審査係主任
総務課総務係	上野 継敏	新潟労働局新潟労働基準監督署
総務課会計係	黒澤 和義	労働基準局労働保険徴収課決算徴収係
総務課会計係	土肥 知美	新規採用
総務課経理係	田中 紀也	大臣官房統計情報部 企画課審査解析室 産業連関表係
大臣官房統計情報部 賃金福祉統計課 安全衛生第一係長	藤原 幹大	総務課経理係長
神奈川県労働局 横浜南労働基準監督署	渡辺 竜	総務課総務係
職業安定局 雇用開発課特定雇用対策係	松田 大吾朗	総務課会計係
労働基準局 労災補償部労災管理課調度係	佐々木 太郎	総務課会計係
労働基準局総務課 庶務経理係	大立目 勇治	総務課経理係

発行日 平成17年4月25日 Vol. 29 No. 2

編集・発行 独立行政法人産業安全研究所

〒204-0024 東京都清瀬市梅園1-4-6

電話：0424(91)4512(代表) FAX：0424(91)7846

ホームページ：http://www.anken.go.jp/